

えいが
映画『マイクロプラスチック・ストーリー
～ぼくらが作る2050年～』



世界の44の映画祭で上映され、8つの賞を受賞した映画『マイクロプラスチック・ストーリー～ぼくらが作る2050年～』が、6月の環境月間に合わせてやってきます。
ニューヨークの子どもたちが、自らの地域のプラスチックゴミ問題について調べ、未来に向けて行動を起こしていくドキュメンタリー映画。一人一人のアクションが社会を変える力へと繋がるストーリーに勇気を与えられます。地域のNPO団体や研究機関が、小学校と連携し、子どもたちをサポートしていく姿にも学ぶところが多くありそうです。

映画公式サイトより→

<https://www.microplasticstory.org/>



- 場所：フォーラム福島 福島市菅根田町7-8
- 期間：6月2日金曜日～15日木曜日
- 主催：「マイクロプラスチックストーリー」福島上映実行委員会



※ 期間中はトークイベントやコラボ企画（市街地ゴミ拾いなど）も開催されます。
※ 上映時間やイベントの詳細は支援センターHPでご案内します。

伊達市市民活動支援センターHP
「マイクロプラスチックストーリー」福島上映実行委員会」ページ

Check!
支援センターHP

伊達市市民活動支援センターのホームページ（センターHP）では、市内NPO法人をはじめ、任意団体やサークル、クラブ、地域自治組織等の活動を紹介しています。

センターHP内にそれぞれの団体の専用ページを設け、代表者名や連絡先、活動内容や

PR・メッセージ等の基礎情報と、画像や発行物等を掲載することができます。専用ページにアクセスするQRコードも作ります。

こんな団体さんにおすすめ!

- HPがあれば…とってはいるけれど、なかなか…。
- 自分達でHP立上げ、管理・運営しなくても広報できます。
- 紙ベースの広報には限界（予算/人手）があると感じている。
- これまで情報を届けられなかった人にアクセスできます。

写真やチラシ、広報誌など、掲載したい物は、そのまま（紙）センターにお持ちいただいてOKです。イベント等の事業周知にも対応しますので、ご相談ください。



チラシ「地域や団体を紹介しませんか」

伊達市市民活動支援センター

〒960-0756 <http://www.date-civilsupport.jp/>

福島県伊達市梁川町青葉町1番地
伊達市役所梁川総合支所庁舎3階

TEL: 024-563-6970 FAX: 024-563-6971
E-mail: bz004492@date-civilsu-pport.jp

毎週月～金曜日(年末年始除く) 午前8時30分～午後5時15分
※木曜日は午後7時00分まで



3階に戻って来ました!



だっちゃん、伊達市が千葉県白井市と友好交流協定を締結した際に贈られた、伊達市ゆかりのキャラクターです。

伊達市市民活動
支援センター NEWS
2023 春号

2023(令和5)年 4月発行 vol.54
企画・編集
伊達市市民活動支援センター
〒960-0756
福島県伊達市梁川町青葉町1番地
伊達市役所梁川総合支所庁舎3階
↑3/16地震で被災し4階に仮移転中です
TEL: 024-563-6970 FAX: 024-563-6971
E-mail: bz004492@date-civilsu-pport.jp
<http://www.date-civilsupport.jp/>



市民活動 いろは
教えて!だっちゃん

Q. NPO法人や任意団体とインボイス制度。関係あるの?

A. 団体が誰からお金をもらっているか? その相手によって異なります。

2023(令和5)年10月にインボイス制度(適格請求書等保存方式)開始されます。インボイス(適格請求書)は、売り手が買い手に正確な適用税率や消費税額等を伝えるもの。団体と関係あるかどうかは、団体(=売り手)が取引してお金をもらう相手(=買い手)の属性により異なってきます。ポイントは「インボイス番号付きの請求書をください」と言ってくる相手がいるかどうかです。

主に個人を相手にしている団体であれば、インボイスの請求書を求められることは少ないでしょう。他方、会社など、インボイスを使って消費税の申告をする相手との取引が多い場合は影響があるかもしれません。例えば、福祉事業を営む団体で、利用者が生産活動を行っているケース。食品などの製造販売を一般消費者向けに行っているのであれば、これまで通りの請求書で良いかもしれませんが、軽作業の受託など、事業者向けの活動が主である場合には、取引先とも相談のうえ判断する必要があるかもしれません。

消費税法では、基準期間で対価性のある収入が年間1000万円以下であれば、免税事業者の扱いになりますが、インボイスの登録申請をすると、以降は課税事業者として消費税を申告・納税することになります。ここでは簡単に説明していますので、よく確認して検討を進めてください。



店内の様子

JAふくしま未来女性部白根支部
しらね里山のみせ
伊達市梁川町白根字馬場83-1

楽しみを支える

2021年、JAの支店再編のため、併設する購買店舗が閉鎖されることになりました。地域で買い物に困る人が増えるのではないかと、そんな思いから、私たちでお店を続けることを決意しました。お店の運営に必要なこと、開店・閉店作業や品出し・棚づくり、接客・レジ打ち、仕入れや在庫・売り上げ管理などを身に着け、引継ぎを準備。2023年2月に支店は閉店しましたが、お店は私たちが続けています。営業は毎週火・金曜日9:30~14:30。日配食品や日用品を揃え、月1度は生鮮食品の売り出しもしています。店に来ることを楽しみにしている方に、あってよかったと言ってもらえると嬉しいです。

買い物は“ついで”?

週2日の営業なので、品揃えの工夫は難しいです。お客様の欲しい物がなかった時は次の仕入れで対応します。売れ筋はお茶菓子。お店に来る方は、買い物に出たり、店で私たちがやり取りするのを楽しんでいるので、買い物はむしろ“ついで”なのかもしれません。今後は旧支店の空きスペースを活用して、店に立ち寄り人が休んだり、話をしたりできるようにしていきたいです。白根自治協議会(地域自治組織)と連携して、見守り兼買い物代行も展開したい。地域の要望と協力がある限り、お店を続けていきます。(024-577-0800 齋藤)



だてな活動



店舗入り口

3 すべての人に健康と福祉を
11 住み分けられるまちづくりを

だてな活動

さくらの村

伊達市保原町所沢字東畑100
(柱沢地区交流館)

身近な学びと集いの場



2019年、柱沢地区の住民有志の企画で「はしらざわ 暮らしの保健室」が始まりました。柱沢地域まちづくり振興会（地域自治組織）と連携して、月1回開催しています。「保健室」は、身近な健康の話題を医療福祉専門職の方に提供いただき、地域住民との交流をはかる場です。これまで医師や看護師、薬剤師、理学療法士はじめ、介護や交通安全、防災など、その道のプロとして活躍されている多くの皆さんをお招きしました。参加者は多い時で20名程度。性別、年代は様々です。普段なかなか聞けないことを専門の方に直接相談したり、参加者同士で共有する良い機会になっています。健康がテーマの「保健室」とは別に、特に目的なく集う場もあって良いと考え、2022年からは「地域カフェ」も開いています。他愛のない会話から、ちょっとした困りごとの相談まで、誰でも気兼ねなく関われる場にしたいと思っています。

活動を続け、広げていくために

地域の皆さんに「ここに住んでいて良かった」と思ってもらいたい。そして、いずれ私たち自身が高齢になった時も、生まれ育った場所で、顔なじみの人に囲まれて、そう感じられるようでありたい。今後も活動を続け、また広げていくためには、組織とし判断し、自立して動けるようになる必要があると考えました。現在、法人格の取得にむけて話し合いを進めています。これからを楽しみにしててください。

(090-5598-9720 清野)

伊達市市民活動支援センターHPでも「さくらの村」を紹介しています→



伊達市市民活動支援センターHPでも「下手渡自治会」も紹介しています→

下手渡地区（4行政区）
・人口：208人
・世帯数：85世帯
(2023年2月末現在)



下手渡自治会

伊達市月舘町下手渡字町37



だてな活動

4 質の高い教育をみんなに
17 パートナリシップで目標を達成しよう

コロナ禍のもと、活動の幅が広がった

地域振興と世代間交流に取り組む私たちにとって、コロナ禍は大きな試練となりました。子どもたちと高齢者が競うグランドゴルフ大会を始め、夏の祭礼（子ども神輿と太鼓）や盆踊り、芋煮会や餅つき・どんと祭といった食文化体験・伝統文化継承活動は中止を余儀なくされたました。日々の行動にも制限がかかる中で、住民の健康を守りつつ、地域に暮らす楽しみや喜びをどうやって共有していけばよいのか。悩みながらもミニ子ども祭りや紙芝居、音楽鑑賞、DVD上映会など、その時々の状況に合わせてできることを実施しました。コロナ禍を経て、私たちの活動の幅はむしろ広がられたといえます。今後は中止していた行事も再開していきますが、映画上映など、評判の良い活動は継続していきたいと思っています。

下手渡の“宝”を糧に

江戸時代、下手渡地区には下手渡藩の陣屋が置かれていました。下手渡藩1万石の歴史と文化は、下手渡の“宝”。地域づくりの要になっています。城下町・下手渡を目指し、はるばる遠方から訪ねて来る方もおられます。地元の私たちよりも知識が豊富で、こちらが勉強させていただくことも…。私たちもますます地域に学び、地元を知っていかねばならないと思っています。(024-573-3546 渡邊)

地域のまとまりが自慢です!



13 気候変動に具体的な対策を
15 陸の豊かさも守ろう

だてな活動

山林愛好会

伊達市霊山町石田



小回りの利く存在でありたい

山林愛好会は、当初「やまもり会」として発足し、伊達市地域おこし支援員の玉手さん（2015～2018年、石田地区）とともに、地元の有志10名ほどが山林の間伐や間伐材の再利用に取り組んでいました。現在、実働部隊は2名になりましたが、山林や竹藪、居久根（いぐね*）の整備や立木の伐採、休耕田の草刈りなど、依頼に応じて実施しています。作業は有償ですが、営利目的ではありません（実費相当額のみ）。石田地区の住民であれば、石田ふるさと振興会（地域自治組織）の里山整備事業を活用することもできます。重機まで投入せずとも、山や田畑、家回りにできる範囲で人の手を入れて整備したい。地元の皆さんのそんな声を聞くと、私たちのように小回りの利く存在が果たす役割は大きいと感じます。

*いぐね：風雪から家を守る屋敷林。食料や建材、燃料としても利用する。

仲間とともに…

私たちの暮らしは様変わりし、かつて行われていた山の手入れもなされなくなりました。人が減り、家が減る。地域は寂しくなっていますが、山に人の手が入っているのを見ると、受ける印象も変わってきます。作業は厳しく、時に危険も伴いますが、自然と向き合い汗を流すことには代えがたい魅力があります。仲間を増やし、ぜひこの活動を続けて行きたい。私自身は退職してから知識と技術を身に着けました。好きな人、やる気のある人であれば、誰でも挑戦できると思います。(090-5356-3014 渡辺)



特定非営利活動法人 かおり福祉会

工房 もものたね

伊達市伏黒字西本場1-1 2階
(福島液化ガス工業(株)伊達工場敷地内)

3 すべての人に健康と福祉を
5 ジェンダー平等を實現しよう
10 人や国の平等をなくそう

だてな活動



悩みや生きづらさに寄り添う

私たちの法人は、障がいを抱える女性の尊厳が守られる社会の実現を目指し、2022年に設立されました。登記上の主たる事務所は福島市内に置いていますが、地元企業の厚意に預かり、2023年2月に就労継続支援事業所「工房 もものたね」（A型10名、B型10名）を伊達市内に開所しています。現在、多くの伊達市在住の職員・利用者の方が在籍し、地元農産物を活用した焼き菓子の製造など、地域に根差した活動に取り組んでいます。一人一人の悩みに寄り添い、共感し、できることで助け合う。利用者の方に安心感のある場を提供することで、生活と仕事を一体的に支援していけたらと考えています。

ただ話をきくだけでよい

障がい者であり、かつ女性であることの生きづらさは複合的で、単純に2倍であるともいえません。そうした悩みを抱える方に、どう手を差し伸べたらよいか。自分にはわからないと思う人もいるかもしれませんが、ただ話を聞くだけであっても十分相手の助けになることを知ってください。私たち一人一人がかけがえなく、取り残されてはならない存在であることを、いつも頭の片隅に入れておくようにしたいです。



伊達市市民活動支援センターHPでも「特定非営利活動法人 かおり福祉会」を紹介しています

(024-572-6822 佐久間)
公式サイト <https://www.momonotane.net/>

